

# 国保旭中央病院

外来患者 3500名（産科1000、婦人科2500）名（1か月平均）  
入院患者 200名（産科 100、婦人科 200）名（1か月平均）  
手術件数 約700件/年：開腹手術 550件、 腹腔鏡手術 30件 、腔式手術 100件  
分娩件数 約1000件/年

指導責任医師 小林 康祐  
医師数9名  
日本産科婦人科学会専門医5名  
周産期（母体・胎児）専門医1名

- ・当院での研修医に求められる目標は、「患者さんに対して家族のような愛情をもって接し、常に幅広い知識と技術の習得に励み、他のスタッフと強調しつつ医療を実践できる研修医を目指す」です。
- ・当院は地域住民のあらゆるニーズに答えるために、周産期医療センター、救命救急センター、ICU、リハビリテーションセンター、特別養護老人ホーム、老人保健施設、訪問看護部、緩和ケア病棟、付属診療所を併せ持ち、幅広い包括的医療を実践しています。
- ・周産期医療は産科と新生児科が協力し合ってはじめて、よりよい医療を産み出します。地域母子周産期センター産科部門としてハイリスク母児の管理を行うとともに、産科医師が新生児科研修を行うことで新生児科医としての経験も積むことができます。
- ・良性から悪性まであらゆる婦人科腫瘍の治療を行います。
- ・腹腔鏡・生殖内分泌疾患・女性ヘルスケアなど非常に豊富な症例を研修することができます。
- ・北米型ERを導入しており、さまざまな産婦人科疾患のファーストタッチを行います。そして、外科・循環器内科・脳外科・精神科など他科との連携により、幅広い産婦人科領域の救急対応が可能です。
- ・緩和ケア病棟や放射線治療部が充実しています。
- ・スキルセンターでの実技実習による指導や臨床研究支援センターによる臨床研究の徹底サポートも万全です。
- ・クリニカルパスを奨励しています。院内での普及率の高さのみならず、日本クリニカルパス学会で数々の学術賞受賞をしており、医療の質の向上を目指しています。
- ・医師は全員病院の提供するマンションに居住(病院まで1～5分の距離)...上級医師も研修医からの緊急要請に迅速に対応可能です。